

中学校第2学年音楽科学習指導案

日時 平成25年11月20日(水)

指導者 教諭 彌永有香

- 1 題材名 歌詞と音楽のかかわり「日本の歌曲のよさや美しさを味わおう」
(主教材「花の街」 江間章子作詞・團伊玖磨作曲)

2 学習指導要領とのかかわり

【A表現：歌唱】ア歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと
〔共通事項〕音色 旋律 強弱 構成

3 題材について

(1) ねらいについて

本題材は、歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫し、表現したい思いや意図をもって歌う能力を高めることをねらいとしている。味わった内容をさらに深めていくという観点から、歌詞や楽曲の成立背景、作詞者や作曲者について学習することも有効であると考ええる。

日本の歌曲は、日本語の語感を十分に生かして作られており、日本語の美しさを改めて実感することができるものである。また、言葉そのものがもつ美しさ、歌詞の情景や心情、言葉の抑揚を生かした旋律の味わいなど、歌い込むほどに魅力が深まる一面も見られる。さらに、様々な体験の不足や生徒たちを取り巻く近年のポップスなどのリズム重視傾向などで、我が国で長く歌い継がれてきた日本の歌をじっくりと味わう機会が減ってきている。我が国の四季や自然の美しさ、日本人の心を感じることができ、長く親しまれてきたのが日本歌曲である。日本歌曲の歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌う活動を繰り返していくことにより、曲想の味わい方が徐々に深まり表現の質も高まっていく。このことは音楽に対する感性を豊かにし、我が国の文化を尊重したり、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を養うことにつながると考えられる。このようなことから、作詞者、作曲者の思いを汲み取り、表情豊かに表現する活動は大変意義深いものと考ええる。

「花の街」は1～2番では希望に満ちた歌詞になっているが、3番では突然光を失ったような歌詞に変わる。戦後の荒廃した国土や人々の心が描かれている曲である。戦後の日本を元気づけられるようにと作られた、全体を通して美しい平和な街への憧れや祈りを込めた作品である。また、詩と旋律の流れが一体となった美しさ、効果的な休符の使い方、反復による旋律の盛り上がりなど魅力的な要素の多い作品で、歌詞のもっている詩情を味わいながら、日本語の美しい響きを生かして表現を工夫するのに適した曲である。

(2) 生徒の実態

(3) 指導にあたって

- 歌詞の内容や曲想を味わい、歌詞や楽曲の成立背景、作詞者や作曲者について学習することを通して、表現したい思いや意図をもって曲にふさわしい表現の工夫ができるように学習を組み立てていきたい。
- 全体、グループ、個人の学習形態を取り入れ、表現の工夫が個人でできるようにしたい。
- グループ活動においては、発言する生徒が限られたり、意見を伝えることが苦手な生徒もいるので、具体的な手立てや助言をしていきたい。

ICT活用のポイント

① 教師の活用

- ・ 導入において、作詞者、作曲者の思いや曲の背景を紹介し、音楽表現の創意工夫への意欲につなげる。

② 教師の活用

- ・ 生徒が音楽表現の創意工夫を書き込んだワークシートや楽譜を実物投影機等で、拡大し、考えなどを全体で共有し、視覚的に捉えられるようにする。

3 単元の目標

- ・ 「花の街」の歌詞の表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもって歌う。
- ・ 音色、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫し、必要な技能を身につけて歌う。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 「花の街」の音色、旋律、強弱、構成などの音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる曲想に関心をもっている。	① 「花の街」の声の音色、旋律、強弱の変化、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。	① 「花の街」の歌詞が表す情景や心情を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な、発声、日本語の発音などの技能を身に付けて歌っている。
② 「花の街」の歌詞が表す心情、曲の表情や味わいを生かし、自己のイメージや感情を膨らませて、曲にふさわしい歌唱表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	② 「花の街」の歌詞が表す情景や心情を感じとって、曲にふさわしい歌唱表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	

5 指導計画及び評価基準（3時間取扱い）

次	学習活動	指導上の留意事項	関	創 工	技	評価基準・評価方法
1	○「花の街」の曲の雰囲気、歌詞の意味、歌曲に込められた願いを感じとる。 ○「花の街」の旋律を歌って覚える。 ○1～3番のおおまかな表現の工夫を考える。	・作詞者、作曲者の言葉を提示し、思いを汲み取って表現の工夫に生かすことが出来るようにする。 ・弱起で始まるフレーズの効果についても触れ、表現に生かせるようにする。 ・音色などの要素に着目して考えられるようにする。	○	○		関①「花の街」の音色、旋律、強弱、構成などの音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる曲想に関心をもっている。 【音楽ノートの記述及び発表】 創①「花の街」の声の音色、旋律、強弱の変化、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。 【音楽ノートの記述及び発表】
2	○音楽の要素の働きと歌詞の内容（1～2番）により生まれる曲想を感じとって表現の工夫をし、必要な技能を身に付けて歌う。	・歌詞と強弱や音色などと結びつけて表現の工夫を考え、工夫したことを歌に表すには、どのような発声や発音をすればよいか提示したりしていろいろと試しながら表現できるようにする。 ・2番の表現の工夫についてグループで考えられるように、拡大譜を用意する。		○	○	創②「花の街」の歌詞が表す情景や心情を感じとって、曲にふさわしい歌唱表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 技①「花の街」の歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを生かした、曲にふさわしい表現をするために必要な、発声、日本語の発音などの技能を身に付けて歌っている。 【演奏（歌唱）】
3 本 時	○1～2番の歌詞と比較し、3番の歌詞の意味やその背景にある情景や心情から生まれる曲想にふさわしい表現を工夫し、必要な技能を身に付けて歌う。	・机間指導を行い、第2時で学習したことを生かして工夫したことを表現できるようにする。 ・全体的な表現の工夫を振り返られるように、1～3番まで通して歌う。	○		○	関②「花の街」の歌詞が表す心情、曲の表情や味わいを生かし、自己のイメージや感情を膨らませて、曲にふさわしい歌唱表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 【学習シート、 グループ活動観察】 ・工夫したことをもとに曲にふさわしい表現をするために必要な、発声、日本語の発音などの技能を身に付けて歌っている。 【演奏（歌唱、学習シートの記述）】

6 本時の展開

(1) 目標 本時の目標 歌詞の内容を味わい、曲にふさわしい表現を工夫し、思いや意図を持って歌ことができる。

(2) 展開

過程	学習活動、主な発問 (T) 予想される児童の反応 (C)	指導上の留意点・評価	備考 ICT 活用
導入 5分	1 前時までの学習を振り返る。 (T) 1～2番の表現の工夫をしたことが伝わるように歌おう。 (C) 1～2番は明るい音色で歌おう。	○ 前時の1～2番の表現の工夫を振り返られるように拡大譜を掲示しておく。	拡大譜 譜面台 学習シート (楽譜)
展開 40分	2 本時の学習課題を確認する。 めあて「花の街」の3番の歌詞の内容にふさわしい表現を工夫して歌おう 3 3番について表現の工夫をする。 (T) 表現の工夫を考えて記入しよう。 (C) 3番は悲しい感じの音色がいい。 (C) 強弱はあまりつけすぎないで、静かな感じがいい。 【言語活動】 (グループ活動) 個人で考えた工夫点と表現をグループ内で発表し合い、アドバイスを生かして再考する。 (T) 個人で考えた工夫点と表現をグループ内で発表し合おう。 (C) 最初のmpは、戦後の苦しく悲しい様子を表すように静かに歌う。 (C) 「わになって、わになって～」のところは、1～2番とは違って、平和への願いを込めたクレシェンドにしたい。 (T) 再度グループ内で聴き合いながら、練習しよう。 4 一人一人が工夫したことを確認しながら、練習したことをもとに歌う。	○ 3番の歌詞の内容や全体的な表現の工夫について振り返られるようフラッシュカードを準備する。 ○ 江間章子さんのコメントを振り返り、「花の街」に込められた思いを想起出来るようにする。 能動型学習 (ポイント) ・ 強弱記号は3番まで変わらないことをおさえた上で、表現の工夫が考えられるようにする。 ◆ (音楽表現の技能①) (演奏 (歌唱)) B基準 「花の街」にふさわしい表現をするために必要な、発声、日本語の発音などの技能について学習した内容が歌に表れている。 A基準 ふさわしい音楽表現をするための響きのある発声、美しい日本語の発音、フレーズを感じた呼吸法が歌に表れている。 <B基準に達していない生徒への手立て> ○ 工夫した点をどのように表現すればよいかを歌って示すなどして発音や身体の使い方などについて具体的に指導する。 徹底指導 (ポイント) ・ 発声、日本語の発音 (鼻濁音など) について確認し、意識して歌えるようにする。	カード プロジェクト スクリーン PC 学習シート 伴奏CD
終末 5分	5 本時のまとめをする。 (T) 学習したことを生かして1～3番まで通して歌おう。 (C) 工夫点を意識して歌おう。	○ これまでの学習を振り返り、表現の工夫を考えることで表現が深まったことを感じられるよう、通して歌う。 ○ 自己評価で学習を振り返るようにする。	ピアノ伴奏

